

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	杜っこ地域福祉事業所		
○保護者評価実施期間	2024年 12月 1日 ~ 2025年 2月 10日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24	(回答者数) 24
○従業者評価実施期間	2024年 12月 1日 ~ 2025年 1月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 20日		

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの意思を尊重した支援をしている。子どものやりたいと いう意欲を引き出し、出来ることにフォーカスし成長を促す。 そこに伴い出来ることが増え子どもの自信にも繋がっている。	・活動内容は子どもたちと一緒に考え決めるように話し合いをして いる。また、個別活動も一緒に考えることもあるため、子どもたちの他児への思いやりが多々見られる。 ・チャレンジ精神を育むため、小さな成功体験ができる活動から 考えている。	・子どもたちの「楽しい」「もっと来たい」に答えられるよう、今後も子どもたちと信頼関係をつくり、保護者と相談しながら、子どもたちを一番に考えた活動等を考えていく。
2	事業所の活動指針をもとに、個別支援計画を子どもの特性に合 わせて作成している。職員全員が関わり、保護者や関係機関と 連携し相談・確認しながら丁寧に検討している。	毎日の支援前と支援後の打合せで振り返りと今後の支援方法など 共有している。その時に感じたことや出た意見はその都度検討 し改善できるように心がけている。	その子がその子らしく楽しく過ごし生活に必要なスキルを身 に着けられるように他関係機関との連携を密にしていく。
3	子どもたちと一緒に職員も楽しく遊び、体系的なコミュニケーションを積極的に取っている。職員や事業所全体が明るい雰囲 気だと子どもたちも自然と笑顔になり「楽しめる場所」となっ ている。	日頃から職員間のコミュニケーションは取るようにして関係性 を構築している。職員に対しても子どもたちに対しても傾聴を 大事にした、個性を認め合う関りを大事にしている。	みんなでつくり上げる事業所として、子どもたちを中心に保 護者と相談しながら信頼関係を築き積極的なコミュニケーションを図っていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われる	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童クラブや児童館、地域の子どもたちとの関りがすくないこ と。	同法人の児童館イベントには土曜日や長期休みなど時間がある とき時々参加している程度で、放課後の時間は帰りの時間が異 なっているので時間を取るのが難しい。 ・公園等での活動中に地域の子どもたちと積極的に関わろうと はしているが利用児の対応でいさつ程度の関りしかできない 時が多い。	事業所からの積極的な関りは人員体制に余裕がないと難しい 面もあり、体制が必要と感じる。また、双方の理解や協力な ど歩み寄りがなければ成り立たないことでもあるため、こま めにかかわりを持ち理解を得られるよう関係をつくりてい たい。短い時間でも関われるような場面を個々に応じて設け ていく。
2	各マニュアルの策定はしてあるが、保護者へ周知できていない 部分がある。	各マニュアルの策定や見直しがあっても保護者へ周知する機会 を設けられていなかったことが大きな要因。	見直しは職員全員で行い、入所時や面談の時に時間を設けた い。また変更時はその都度周知できるよう全員で確認していく ことが必要。
3	室内の広さや場所の確保について不十分さを感じるときがあ る。	利用人数が増えることに伴い、職員数も増やすため人口密度は 高くなってしまう。また、活動室にテーブルが二台あるなど家 具や物が多いと感じる場面がある。	必要時以外は端に寄せたり片づけることで、遊びの場所の確 保をしていく。また、今後も個々の状況に合わせながら外出 と室内など活動を二つに分けるなどして広く使えるように配 慮していく。